

## 結果と考察

小型水槽における一次飼育結果について表4に示す。

カキ幼生の投与は0.5トン水槽については1日あたり1千万～2千万個、1トン水槽は2千万～4千万個で0.5～1トン水槽における投与密度は、20～40個/mlであった。前年度においてカキ幼生投与量が多い程、生残率が高い傾向を示したが、今年度は移殖したマガキの斃死率が高く、生殖腺の委縮した個体が多かった等により

表4 小型水槽における飼育結果

マガキ幼生の必要量を確保することが困難となり、前年度よりも低密度で投与せざるを得なかった。生残率については、前年度20～50%の歩留りに対して、今年度は9.9%の結果であった。

大型水槽における継続飼育については沖出しまでのワムシ総投与数は52億個、チグリオプスは500gであった。沖出し尾数は12800尾、平均全長14.8mm、歩留りは11.6%、ふ化仔魚からの通算歩留りは1.1%であった。大型水槽における歩減りは飼育

使用水槽	日令8,9 取り揚げ尾数	歩留り
	$\times 10^3$ 尾	
500ℓ①	14	17.9
②	5	5.6
③	1	1.0
④	5	6.3
⑤	11	12.7
⑥	9	12.8
1,000ℓ①	30	22.7
②	15	9.3
③	8	9.5
④	8	4.6
⑤	4	6.4
計	110	9.9

開始後2～3日に確認されており、斃死率は50～60%であった。減耗要因としては、マガキ幼生の投与中止と、ハマフエフキ仔魚が摂餌可能な大きさの、ワムシ餌料不足が考えられた。

## Ⅲ 70トン水槽における粗放的な飼育

### 材料と方法

屋外コンクリート74トン(7.4×5.0×2.0m、有効水量60トン)水槽に40トンの海水を張り、浮上卵を420g収容した。日令1から12まで約1,500万細胞数濃度のクロレラ海水を1～2トン/日を添加、日令13以降からは0.1～0.5回転/日の流水飼育とした。

餌料は日令1から10まで選別ワムシ(80μの網地から抜け出た小型ワムシを40μの網地で採取)、300～500万/日を投与、日令11から31日まではS型ワムシを10個/mlの密度を目安に、日令24から32まで20～60g/日のチグリオプスを、日令32から取り揚げまで100～200g/日のマダイ初期用人工配合飼料をそれぞれ投与した。

### 結果と考察

浮上卵を直接収容し、翌朝のふ化完了後のふ化仔魚数の計測では $960 \times 10^3$ 尾でふ化率は83.9%であった。飼育期間は5月28日から7月8日までの42日間で、その間の水温変動範囲は25.8～29.6℃、標準比重は1.0254～1.0261、PHは8.49～8.84の範囲であ